

主伐期を迎える人工林材の利用拡大

～地域材の利用拡大に向けて～

網走中部森林管理署

【現状・課題】

- 森林資源の豊富なオホーツク地域では、人工林資源充実により間伐から主伐へシフトしてきており、今後は中大径材の生産量が増加する
- オホーツク地域は8割の森林が認証材であり、認証材を普及させる取組が必要

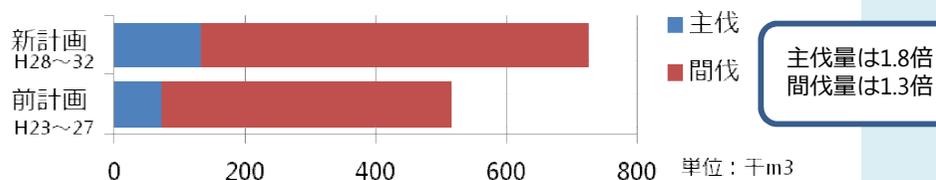
- 地域材の利用拡大に向け民有林と連携した認証材の普及活動等の取組み
- 増大する資源へ対応できる効率的な施業方法の普及

【平成27年度の取組】

① 実行管理推進チームでの取組

地域材の利用拡大、木材の安定供給を推進するため、国有林での5カ年間の伐採量見通しを市町村森林整備計画実行管理推進チーム会議（佐呂間・置戸・訓子府・北見）において情報提供し、民有林と連携した伐採情報の共有を働きかけるとともに、地域で取り組んでいくことを要請しています。

網走中部署：国有林野施業実施計画における5年間の伐採量



③ 森林施業技術向上への取組み

今後増大する豊富な資源を活用していくためには効率的な施業が必要なことから、置戸町、森林組合等を参集する中で置戸町との共同施業団地内の国有林において、低コスト作業システムや路網作設技術についての現地検討会を開催し、民有林への森林施業技術の向上に資する情報を発信しています。



② 地域と連携した普及啓発活動



一般町民を対象に地域における木材利用の重要性や認証材についての普及啓発等を目的として、伐採から製品が出来るまでの流れ（民有林皆伐現場、森林組合製材工場）を見る見学会を置戸町・森林組合等と連携し開催しています。

参加者からは「林業機械の性能に驚いた」「地元の木材がどのように利用されているかよく分かった」「今後も開催して欲しい」などの声が聞かれ、林業・木材産業への理解を深めることが出来ました。

【今後に向けて】

引き続き地域材の利用拡大に向けて、民有林との伐採情報の共有を図るとともに、地域住民への普及活動等や共同施業団地の活用方策、効率的な施業方法、低コスト作業システムの普及など検討を進めていく。